

◆監修

日高 昭二
五十殿利治

ひだか しょうじ
近代文学研究・神奈川大学教授
おむか としはる
近代美術史研究・筑波大学教授

文学・絵画・演劇・映画―大正・昭和前期、芸術の
各ジャンルを席卷した、未来派・立体派・表現派
の言説を初めて集大成。

芸術の各分野を席卷した昭和前期の一大潮流「モダニズム」は、震災後突如としてその姿を現したわけではなく、それ以前に発表された数々の、翻訳書、紹介案内書（評論）の摂取、その蓄積のうえに成り立っている。本企画「海外新興芸術論叢書」は、大正期におけるその摂取の実態を精査に解き明かす、待望の復刻アンソロジー群である。キュビズム、表現派、未来派、立体派……、およそ考えられるすべての海外新興芸術に関する言説がここには網羅されている。

■新聞・雑誌篇

■全十巻■

海外新興芸術論叢書

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBU

▼新聞・雑誌篇▲ 第1巻 1909~1915 明治42年~大正4年

むく島通信 未來主義の宣言十一箇条(森鷗外) / アンデパンダンの画(石井柏亭) / 未來派の絵画 / フェウチュリズムを紹介(森田亀之助) / 伊國未來派の宣言 / 將來派の絵画展覧会(長谷川天濤) / 未來派の絵(斎藤与里) / 未來派と若き伊太利(木村莊八) / 專横にして潜越なる彼等(岸田彌生) / 断はり書(木村莊八) / 巴里より(与謝野寛) / 未來派の音楽 / 未來派の詩(与謝野寛) / 立休派の諸作(与謝野寛) / 火曜日の夜(一) (与謝野寛) / 美術界の紛擾 / マリツチと未來主義(ル・ブラン) (高瀬俊郎訳) / カンデンスキーの象徴芸術論(中井宗太郎) / 洋画に於ける非自然主義的傾向(木下李太郎) / 未來派の事(木村莊八) / 再び未來派に就いて(斎藤与里) / 未來主義の音楽 / ベルリン・ゼツェンヨソ展覧会(一) (斎藤佳三) / 未來派に就いて(木村莊八) / 巴里より / 正宗得三郎君へ(山本鼎) / フェウチリスムの具體的解釈(永瀬善郎) / 文展第二部(三) (木村莊八) / 立方派(アルベル・グリーズ・ジャン・メツナガ) / 木村莊八歌 / 立方派に就いて(木村莊八) / 未來派の婦人論 / 未來派婦人の榮欲論(フランティヌ・ド・サンボワン) / 未來派の舞踊(松岡曙村) / 日曜附録(無題) / 生活態度としての未來主義(仲田勝之助) / 動的意識の発現(仲田勝之助) / 東西覚え書き / 表現派と立方派と未來派(斎藤佳三) / 伊太利未來派(森口多里) / 未來派の表現(曠風) / 近代洋画界に就いて(鹿子木孟郎) / 狂に近きロシヤの未來派(昇曙夢) / 未來派と劇場(マリネット) (山本有) / 未來派女詩人の踊(フランティヌ・ド・サンボワン) (与謝野寛訳) / 未來派の新劇作家 / 芸術上の反逆・倫敦のサロン / 未來派の休暇観 暑中の工業地 / シュワーピングより(澤木梢) / 秋の展覧会(七七) / 未來派の主張(植田壽藏) / 未來派万歳(仲田勝之助) / 露西亞の若き芸術(中井宗太郎) / 泰西画界新運動の経過及びキュビズム附其批評(森田亀之助) / 世界的たらんとせる日本文芸の現状 / 一日一信 / 立休派の詩(白鳥省吾) / 舞台組成論(カンヂンスキー) (灰野生平訳) / 印象派對未來派(ボツチオニ著) (有島生馬訳) / 裝飾美術に侵入せる未來派 / 未來派企畫の新建築(若月紫蘭) / 新芸術に就いて(一) / 旅中小感(八) (岩村透)

▼新聞・雑誌篇▲ 第2巻 1916~1921 大正5年~大正10年

青見氏の展覧会 / 立休派の画 / 新美術講話(木下李太郎) / 未來派の展覧会(高村真夫) / 音楽入の二科会 / 運動と傾向と(石井柏亭) / 日本に於ける未來派の詩とその解説(萩原朔太郎) / 美術界を顧みて(中) (紀里峰) / 印象派より立休派、未來派に達する迄(澤木梢) / 印象派より立休

派未來派に達する迄(澤木梢) / カンヂンスキーの印象(澤木梢) / キュビズムの女神(堀口大宇) / 表現派の未來(斎藤佳三) / 二科院展洋画評(三) (天代幸雄) / 立休派の待遇を受ける一人として(佐藤春夫) / カンヂンスキーの画論(森口多里訳) / 立方派を論ず(野口米次郎) / 二科展覧会を評す(七七) (天野隆徳) / 文展西洋画評(三) (坂崎坦) / 戦後の画界 近代の欧州画界(久米桂一郎) / 未來派文学(堀口大宇) / 未來派と二三の批評(片上伸) / 人生の未來派(昇曙夢) / 赤露の文芸(三) (尾瀬敬止) / イバニエスの新訳 / 露國の未來派芸術(黒田乙吉) / 独逸特信 立休派映画 / 日本に於ける最初の露國画展覧会(石井柏亭) / 官憲の眼を逃れて未來派が南の嶋へ / 表現主義の芸術 最近独逸文壇の傾向(山岸光宣) / 自然主義と表現主義(中井宗太郎) / 印象主義と表現主義(ランツベルグ) (佐久間政一訳) / 「スツルム」運動(黒田礼二) / 眼の音楽(ヘルマン・バルの表現主義) (小牧健夫) / 「電気人形」に就いて(神原泰) / 美術に於ける表現主義(斎藤佳三) / 新興独逸文学概観(片山孤村) / 表現主義の流行と文人画の復興(梅澤和軒) / 最近の傑出映画「カリガリ博士」を顧る(谷崎潤一郎) / 独逸表現派の戯曲「カリーの市民」を見て(水木京太) / 新タイロイズムの出現 / 巴里の華(サロン雑誌) / 表現派映画「カリガリ博士」について(梅村紫声・竹久夢二) / 表現主義の根本概念(益田国基) / 反動的芸術(山本有) / 「カリーの市民」の解釈(新聞良三) / 良人遊学の後を追うて佛蘭西へ一人旅(巴里の旅へ) / 「カリガリ博士」を顧る(佐藤春夫) / 表現主義及び理想主義(桑木淑賢) / 音楽の部 未來派音楽会(東郷青児) / ダマ主義とは何か(川路柳虹) / 表現主義の戯曲に就いて(成瀬無極) / 表現主義について(茅野蕭々) / 伊太利未來派画家宣言書(未來派の第一宣言表) / マリネット) / 二科所感(上) (春山武松) / フェウチリズムの芸術(ニコライ・アセエフ) (中村白葉訳) / 帝展評 洋画(上) (仲田勝之助) / 未來派舞踏の宣伝(マリネット) (牟野萬里訳) / 美術「未來派展」について—未來派絵画の社会性—(柳瀬正夢) / 西歐文芸界に就いて(柳沢健)

▼新聞・雑誌篇▲ 第3巻 1922 大正11年

私の未來主義と実行(平戸廉吉) / 紙上漫歩 / サロン・ド・オートニヌを顧る(正宗得三郎) / 独逸文壇における世界同胞主義の運動(山岸光宣) / 無産階級の芸術としての未來主義の意義 / 紙上漫歩 / 巴里だより(東郷青児) / 巴里より(東郷青児) / 未來派及び立休派とその詩歌(川路柳虹) / 未來派の勝利(神原泰) / 日本の表現派戯曲「科学食料会社」(中村吉蔵) / 新独逸の表現派と其運動に就いて(東郷青児) / 未來主義とは何ぞ(マリネット) (中山龍一訳) / 戯曲に於ける表現主義(マンフレッド・シュナイデル) (平野萬里訳) / 佛國現代美術展の絵画に就いて(長

谷川界) / 表現派の三つの部門(吹田順助) / 白夜雨稿(有島生馬) / カイザアの「朝から夜中まで」(小山内薫) / 独逸劇界の最近傾向(山岸光宣) / 主観解放の芸術(秋田雨雀) / 突飛なる詩派に就いて—未來派、立休派、ダ、派、写象派の詩(川路柳虹) / 柏林の劇壇(吹田順助) / カンヂンスキーとベツヒシュタイン 表現派の二傾向について(勝原雅太) / 立休派の發生(神原泰) / 独逸の写象主義より表現主義まで(岡田忠二) / 平戸廉吉氏逝 / キュビストより見たるアングル(アンドレ・ロオト) (田中喜伴訳) / 表現主義の精神(村田良徳) / 独逸詩壇に於ける表現派の先驅(茅野蕭々) / 未來派画家ブルリユーク(他和律) / 新独逸の新文芸運動(山岸光宣) / 自然主義より表現主義へ(片山孤村) / 印象派芸術と表現派芸術(ランツベルグ) / 三科インデペンデント展覧会 / 独逸表現派の社会革命劇(山岸光宣) / 革命詩人エルンスト・トラー(別府代太郎) / 万国美術展覧会の新運動(村山知義) / 未來派以後の芸術傾向(上野虎雄) / クビストの豹変(神原泰) / 所謂抽象的表現主義(益田国基) / 上野虎雄氏に与ふ(神原泰) / 本年の戯曲界(中村吉蔵) / 表現派模範テクタイ / 自由人生の創造(尾瀬敬止)

▼新聞・雑誌篇▲ 第4巻 1923 大正12年

未來派の宣言に就いて / 表現派映画「朝から夜中まで」に就いて(野川丞) / シュミットボンに就いて(茅野蕭々) / 表現派戯曲に対する一考察(北村喜八) / 余の説者及び批評家へ—神原氏の抗議文の解剖(上野虎雄) / 「人間」の翻訳に就いて(小山内薫) / 印象派から未來派へ(神原泰) / 年頭雜感(内藤辰雄) / 表現派の一年(中村吉蔵) / ダダイズムと表現主義との対比(二氏義良) / 独逸表現派戯曲家(田中総一郎) / ユウジン・オニールの片影(田中総一郎) / ハアゼン・クレフェルの「人間」の解説(小山内薫) / 仏國新興美術 六(税所篤三) / 模倣芸術と對象性(渡辺吉治) / エルンスト・トルラの戯曲(吹田順助) / 独逸劇場の種類・観覧料・演出時間と模倣(山岸光宣) / 未來派劇 / 新しき時代の精神における(神原泰) / 表現派絵画の四傾向(北村喜八) / 未來派劇について(神原泰) / シェンベルヒの音楽(アントン・フォン・ウェーベルン) (片山孤村訳) / 表現主義の舞台芸術(野尻清彦) / 表現派と新劇場(久能龍太郎) / 過ぎゆく表現派 村山知義 / 水(表現派詩・カンヂンスキー作) (村山知義訳) / 階級教化の文芸(山内房吉) / カベックの戯曲労働者製造会社(鈴木善太郎) / 新活躍に入る未來派の美術家 / フランス現代美術展を顧る(仲田勝之助) / 表現派芸術ドイッ現代美術展 / 立休派に関する考慮(神原泰) / 触覚主義と驚異の劇場(村山知義) / 戯曲家としてのウンルー / 特にその「二時代」に就いて—(吹田順助) / 表現派の劇詩人ラインハルト・ゾルゲ(山岸光宣) / 独逸の絵 柏林美術展覧会の印象(瀬名黙太郎) / 絵画の理解(神原泰) / 見た芝居の中から

益田甫 / プロレタリアの美学と表現主義 (石渡山達) / 未来派の自由語 (神原泰) / ゲオルク・カイザア論 (吹田順助) / サロンの作家達が今秋の二科会を飾る / ハアゼンクレーフ三戯曲 (林政雄) / ビカソの言葉 (神原泰) / 表現派の気分 (黒田礼二) / ドイツ現画壇の主潮 (中原実) / 陽の下の新 表現派とエトシロミットの小説と (羽太鏡治) / 総合的な芸術運動 / 新しき表現 (岡田三郎) / 舞台芸術の「革命」機会を得た表現派の演出 (永田衛吉) / イバニエスの輪郭 (登井鎮夫) / 新時代創造の演劇 イブセン会主催の最初の試演 (藤井真澄) / 表現派の洗礼 (鈴木善太郎)

▼新聞雑誌篇 ▲ 第5巻 1925 大正13年

ゲオルク・カイザアの社会劇 (吹田順助) / 立体派への道程 (北村喜八) / 表現派の勝利 (田辺泰) / 機械的要素の芸術への導入 (村山知義) / 文芸上の立体派運動 (岡田三郎) / 今後の世界を支配すべき表現主義 (藤井真澄) / イバニエスと彼の作品 (千葉亀雄) / 時評 イバニエスが来た (千葉亀雄) / 未来派詩人の小使 (登井鎮夫) / 新芸術の出発点 / 複雑なる意識の同時性 (西川勉) / アクション前記 (神原泰) / 私達の時代の絵画 / アクション社の展覧会 / アクション展 (仲田勝之助) / 最近の伊太利詩壇について (藤井清士) / 立体主義とその中堅作家 (黒田重太郎) / 新著週評 / 立体派、未来派、表現派 (村松正俊) / 上演台本解説「海戦」(ラインハルト・ゲエリク) / 雨空の下の一観劇 / 築地小劇場の初演を観る (秋田雨雀) / 表現派の理解 (仲田勝之助) / 未来派及び表現派の絵画の陥れる本質的誤謬を指摘して絵画の本質に及ぶ (久志卓真) / 現代劇作家評伝 ユージン・オニール (北村小松) / 築地小劇場批判 (正宗白鳥ほか) / 演出者と舞台画家 ラインハルトとシュテルン (ヘルベルト・イェリク) / 上演台本解説「入道人間」(カレル・チャペック) / フユチリズム、オルフィスム及びサンクロリズム (黒田重太郎) / 第一線の芸術家フェルナン・レゼ (二氏義長) / 人間と狼 (秋田雨雀) / ゲオルク・カイゼルの片影 (ユリウス・パツプ) / 伊藤園夫訳 / ゲオルク・カイゼルの小論 (アシユリイ・デユクス) / 北村喜八歌 / カイゼルの三部作ゲオルク・カイゼル小伝 (北村喜八) / ゲオルク・カイゼル著作目録 / 現代劇作家評伝フリッツ・フォン・ウンルー (伊藤武雄) / 築地小劇場の「瓦斯」(中村吉蔵) / ユージン・オニールの一戯曲 (北村小松) / 今日の独逸演劇 (イワン・ゴル) / 現代の独逸戯曲 (マックス・クレレ) / ユージン・オニールの戯曲 (北村小松) / 「地平線の彼方へ」 ユージン・オニール小伝 / 誤られたる表現主義 (ヘルベルト・イェリク) / 作者を探す六人の登場人物 (蛇頭生) / 僕、友達、トラー (青野季吉) / 巻頭言 / 築地小劇場を見る「瓦斯」合評会 (林政雄ほか) / ビランデルロの「六人の登場人物」に就いて (木田満津二) / ゲオルク・カイゼル (高橋邦太郎) / ゲオルク・カイゼルの技巧 (北村喜八) / 受動主義者としてのカイゼル (デイエボルド) / 「朝から夜中まで」の内容 (小山内薫) / 「朝から夜中まで」に就いて (オウマンコウスキイ / 巖谷三郎) / 「朝から夜中まで」の演出評 (ジイクフリイド・ヤアコフソン) (横田傳次) / 敗残者閉話 (内藤辰雄)

▼新聞雑誌篇 ▲ 第6巻 1925 ~ 1926 大正14年 ~ 大正15年

「朝から夜中まで」の感想 (藤井真澄) / 「朝から夜中まで」梗概と写真 (ゲオルク・カイゼル) / 日本島 (堀木克三) / 美術の露西亞に新しい産業派 (昇曙夢) / 世界観としての表現主義 (ハ・ウエ・カイク) / 表現主義戯曲の研究 (小山内薫) / 上野二 帯けふからさきかけの春の逸品 展覧会巡り / 未来派の分化と没落 神原泰著「未来派研究」を読む (川路柳虹) / オニールの断片的紹介 (北村喜八) / 文芸寸言 (村松正俊) / 小劇場雑感 (藤沢清造) / エルンスト・トルレル (北村喜八) / 文芸時代と未来主義 (佐藤一英) / プラダの演劇とチャペック兄弟 (北村喜八) / カレル・チャペック (高橋邦太郎) / 我が「昆虫劇」を書くに至つた経路 (ヨセフ・チャペック、カレル・チャペック) / 表現派に現はれたプロレタリアの問題 / エルンスト・トルレルの戯曲 (北村喜八) / 日曜の書架 / ロボット / トルラーの作 (今東光) / 放送室「表現派提議」(羽太鏡治) / 放送室「トルラーの肖像」(守田有秋) / 「春のめざめ」(パウエル・フエヒター) / エデキント観 (ステファン・ツワイグ、レオポルト・イェスナー) / 「劇場の三科」(吉田謙吉) / 「詰らなければ大成功珍妙なお芝居を並べて」(お客さまを煙に巻いた) / 仏蘭西と独逸の映画に就いて (巨勢春野) / 戯曲「ヒンケマン」に就いて (パレット・エツチ・クラアグ) / トルレル自伝 (エルンスト・トルラー) / 近頃文壇のこと (金子洋文) / 表現主義へ (金子洋文) / 表現派の瘦弱者 (古賀不美男) / ハアゼンクレーフェルの「決定」(ロベルト・リイマン) / 表現派戯曲集「市場・工場」の会 / 演目解説 / 関西の説者のために「海戦」(牧場の花嫁) (北村喜八) / ロシヤ芸術の左翼戦線 (茂森唯士) / 三科が来た! (村山知義) / 表現主義の危険と新現実主義の要求 (中西伊之助) / ハアゼンクレーフェルの戯曲 (北村喜八) / 三科会解散展覧会中止 / 未来派のプラテラ (神原泰) / 表現派以後の情勢 実在への傾向について (辻恒彦) / 表現派以後 / プレツヒットの戯曲について (辻恒彦) / 未来派音楽 (石川義二) / ゲオルク・カイゼルの新作「G. B. B.」(ロバート・アアノルド) / トルラーの文学観 (藤井清士) / 紙上放送室 新人生活と無産派 (伊藤永之介) / 愚かなる感想 (岡宮茂輔) / ルイヂ・ピランデルロの片鱗 (高橋邦太郎) / ビランデルロの戯曲について (宅昌一) / 各人各説? / ビランデルロの好物ユーモア (辻恒彦) / ビランデルロの芸術座 北村喜八 / 表現派戯曲及びその紹介に対する蛇足的評言 陵上問語 (高間芳雄) / エドシムミットの表現派文学論 (藤井清士) / 英一蝶とグロテスク / 第四次元の世界へ / 表現主義の本質とその史的発展 (吉田一穂) / 表現主義小考 (金子洋文) / 叛逆児エルンスト・トルラー (木野正次) / ビランデルロの戯曲に就いて (ルイヂ・トネツリイ) / 独逸劇壇の印象 (茅野緒吉) / カアル・シュテルンハイム (ハンス・ナウマン) / シュテルンハイムの小伝と戯曲目録 / トルラーと小熊秀雄 (中野重治) / 絵画の一般の転回 (神原泰) / イタリア未来派の新しい詩人達 / 喜劇詩人カアル・シュテルンハイム (成瀬無極) / エドシムミットの表現派文学論 (藤井清士) / 未来派と構成派 (岡田龍夫) / 仏展の特色と逸品 / サン・ドラールのカリガリスム観 (内田岐三雄) / プレエズ・サン・ドラール / 解説 (飯島正) / 再びカイゼルに就いて (北村喜八) / カイゼル雑話 (蛇頭

生) / カレル・チャペック (アシユリイ・デユクス) / 新実在の芸術 独逸に於ける最近の芸術傾向 (仲田定之助) / 「入道人間」築地のマチネ / 日本の戯曲界と表現派的精神 (倉田百三) / 表現主義劇の思想的考察 (山岸光吉) / 「朝から夜中まで」再演の舞台装置に就いて (吉田謙吉) / ル・フオコニエの芸術 (黒田重太郎) / 最近ドイツの演劇と映画 (案豊吉) / トルラーの芸術観 / 群集 / 序文に就いて (木野正次) / 大戦後の独逸戯曲 (アルフレッド・ケル) / 「海戦」 / 絵画の階級性 / 一科展を観て (大澤衛) / 絵画の階級別を離す 大澤氏の二科展評に対して (山田三郎太) / 期待されるドイツ美術展 / フェルナン・レヂエ (高崎信次) / カイザアの悲劇 (成瀬無極) / 表現主義の主潮 (上村清延) / 独逸演壇の一九二六年 (久保栄) / 新美術展を集めドイツ展けふ開く / 列車の老人 / ドイツ現代美術展小感 (時岡弁三郎) / 表現派をつつたドイツの現代美術 / 「狂った一頁」の地位の価値 (宮森次郎) / 舞台技巧から見た「平行」(北村喜八) / 初めて上演される表現派戯曲「平行」

▼新聞雑誌篇 ▲ 第7巻 1927 ~ 1929 昭和2年 ~ 昭和4年

十年間の独逸戯曲鳥瞰 (案豊吉) / 「平行」を観る (千田是也) / 立体派への道程 (ダニール・アンリ) / 高地海沢 (毛痕の舞台装置) / 「平行」表現派の先駆者ゲオルク・ビューヒネル (成瀬無極) / 「ホオゼ」梗概 / シュテルンハイムに就いて (久保栄) / 映画評 破綻の百出に驚く「朝から夜中まで」(郡田鐵心) / オットー・ディツクスの作品 (仲田定之助) / プリンス・ハアゲン演出前記 (村山知義) / イバニエスと日本 (千葉亀雄) / フランス美術展 / 素晴らしいロシヤの美術品 / 現代文学の系統的批判 (岡澤秀虎) / 「毛猿」と表現主義 (北村喜八) / 海外文芸消息 / ランデルロとイタリ劇界の危機 (柳田泉) / プリンス・ハアゲン演出後記 (村山知義) / ハアゲンの初日 (荒畑寒村) / ロオトの人と芸術 (黒田重太郎) / シュテルンハイム評伝 (久保栄) / アドリアーノ・ティエルゲルが見たピランデルロの演劇 (我野完二) / トルラーの演説 (千田是也) / ジュアン・グリーを憶ふ (ワルドマール・ジョルジュ) / シュテルンハイム (カジミル・エートシムミット) / 吉村鐵太郎訳 / 「質屋と花嫁と紳士」について (北村小松) / 表現派とカイゼル (北村喜八) / 無題 (武者小路実篤) / トルレルの詩「燕の雷」紹介 (案豊吉) / 入道人間の見方 (山崎重英・松川藤) / アンティゴネに就いて (中村吉蔵) / 「どっこい、生きてある!」の演出の方法と装置の構造 (山村冷笑) / 表現主義より新芸術主義へ (栗田柳吉) / 二科は何処へ行つたか? (大月源二) / 未来派の自由語を論ず (神原泰) / 美術新秋 / 来朝の噂あるユウジン・オニール (北村喜八) / 新しい作家のグリーンパス / 伊太利文学概観 (原田謙次) / 夜の宿 / 築地小劇場 (秋島邦彦) / ビランデルロとの会話 (鳴海フィリップ) / 文芸盛衰記 評論家の巻 三 / ビランデルロの断片 (岩田豊雄) / ユウジン・オニールに関する覚え書き / 「どっこい、生きてある!」の梗概 (黒田禮二) / 未来派の建築 (神原泰) / 機械と文学の関渉 (新居格) / 戦争の体験物全盛 戦近ドイツ文学の新傾向 (新関良三) / 「朝から夜中まで」の戯曲として (北村喜八) / シネ・ポエム (川路柳虹) / イタリア / 文藝ニュース / 著作家組合の成立 (岩崎純孝) / ゲオルク・カイザアの

近作—オクトベルタク—(浅野時一郎)／フリッツ・フォン・ウンルウ(山口悌治)／フェルナン・レジエ(中川規矩彦)／最近独逸文学における新即物主義 一—二(茅野蕭々)／独逸男トッレル(丸木砂土)

▼新聞・雑誌篇▲ 第8巻 1930~1940 昭和5年~昭和15年

魔術的現実主義 最近ドイツ文壇の諸相(新開良三)／一九三〇年協会(脇本榮之軒)／神秘的写実主義(成瀬無極)／疾風怒濤時代と現代独逸文学(佐藤通次)／現在ドイツ文学とノイエ・ザハリカイト思潮 上・下(武田忠哉)／フラスコ・イパニエスとその作品(松本正雄)／ストリンドベリからオニールへの一線(志賀勝)／フェルナン・レジエ論(川口軌外)／文学の新しき表現・技術を何処に求めるか(本莊可定)／新即物主義の本質とその流派(吹田順助)／超現実主義は没落するか(春山行夫)／立体派画家の美学的考察(前田寛治)／シュテルンハイムの見た新

海外新興芸術論叢書 第1回配本 刊本篇 全12巻 各巻の収録内容

好評発売中

▼刊本篇▲ 第1巻

『芸術の革命』(抄録)／フランク・ラター・著／木村莊八・訳・大正3年・洛陽堂／『露国現代の思潮及文学』(抄録) 昇曙夢・大正4年・新潮社／『キュービズム』(A・クレイズ／J・メッテンガー・著)／藤武緑郎・訳・大正4年・向陵社／『未来派及立体派の芸術』(木村莊八・大正4年・天啓堂)

▼刊本篇▲ 第2巻

『立体派と後期印象派』(アーサー・ジェローム・エツデイ・著)／久米正雄・訳・大正5年・向陵社／『新芸術』(抄録) 吉野作造・編・大正5年・民友社

▼刊本篇▲ 第3巻

『マチス以後 仏蘭西絵画の世紀』(川路柳虹・大正5年・アトリエ社)／『異端の画家』(抄録) 森口多里・大正9年・日本美術学院／『デビュシイ以後』(抄録) E・ヴェレス・著／大田黒元雄・訳・大正9年・音楽と文学社／『表現派の芸術』(佐久間政一・大正11年・日本美術学院)

▼刊本篇▲ 第4巻

『現代の独逸文化及文芸』(抄録) 片山正雄・大正11年・文献書院／『近代美術十二講』(抄録) 森口多里・大正11年・東京堂書店／『ピカソと立体派』(中川紀元・大正11年・日本美術学院)／『芸術と芸術家』(抄録) 山岸光宣・大正11年・内田老鶴圃

即物主義(茅野蕭々)／第三形同盟成立／表現主義より新即物主義への転向—現代独逸文学の一展望—(高橋健二)／サロン美術の没落時代 フェルナン・レジエと語る(松尾邦之助)／クラブラント特集号(「エルント」六号)／仏蘭西西壇望(福澤一郎)／ファツシズム文学の発生まで(松尾邦之助)／大衆批判 新即物主義の転向(飯高規矩)／表現主義以後の独逸文学概観(山岸光宣)／表現主義の歪曲主義的推移(中原実)／フランス新興美術の鳥瞰(松尾邦之助)／最近のチオルヂユ・ブラツクと立体主義の成果(外山卯三郎)／ブラツクの立場(ワルドマア・ジョルジ) (吉田武夫訳)／ウエルフェルからの手紙(笹澤美明)／海外文芸通信・イパニエスの遺習帰る／今日のドイツ文学 魂に訴へる作品(片山敏彦)／伊太利詩壇は何処へ行く(松尾邦之助)／立体主義小史考(井澤秋夫)／アブストラクト・アート(長谷川三郎)／エルンスト・トルラアについての覚え書(秋田雨雀)／獄中からの手紙(和井英二)／立体派彫刻家リプシツとロオランヌ(荒城季夫)／抽象芸術(福沢一郎)／エ

▼刊本篇▲ 第5巻

『未来派とは?答へる』(デ・ブルリュック・著)／木下秀・訳・大正12年・中央美術社／『表現派の映画』(抄録) 工藤信之助・大正12年・中央美術社／『新しき時代の精神に送る』(抄録) 神原泰・大正12年・イデア書院／『芸術の理解』(抄録) 神原泰・大正13年・イデア書院

▼刊本篇▲ 第6巻

『立体派・未来派・表現派』(二氏義良・大正13年・A.R.S.)

▼刊本篇▲ 第7巻

『現代芸術講話』(抄録) 川路柳虹・大正13年・新詩壇社／『印象より表現へ』(山岸光宣・新演劇叢書1・大正13年・玄文社)／『映画芸術研究』(抄録) レスカアボラ・著／川添利基・訳・大正13年・聚芳閣／『表現主義の戯曲』(北村喜八・芸術研究叢書・大正13年・新詩壇社)

▼刊本篇▲ 第8巻

『現在の芸術と未来の芸術』(抄録) 村山知義・大正13年・長隆舎書店／『戯曲の創作と構想』(抄録) 藤井真澄・大正14年・弘文社／『未来派研究』(神原泰・大正14年・イデア書院)

▼刊本篇▲ 第9巻

『ピカソ』(抄録) 神原泰・大正14年・アルス／『カンディンスキー』(抄録) 村山知義・大正14年・アルス／『日本映画年鑑大正13・4年』(抄録) 大正14年・東京朝日新聞社／『独逸文学十二講』(抄録) 三井光

ルンスト・トラアの近況 印象派より抽象絵画(André H. Benoit) (寺田竹雄訳)／ケオルグのこと(植村敏夫)／トラクルの詩(植村敏夫)／感想録(チオルジュ・ブラツク) (大森啓助訳)／立体派以後の絵画論(春山行夫)

▼新聞・雑誌篇▲ 第9巻 補遺篇1

ドイツ表現主義(第一集)／ドイツ表現主義(第二集)

▼新聞・雑誌篇▲ 第10巻 補遺篇II・解説

ドイツ表現主義(第三集)／一九二〇年代日本における表現主義(白高昭三)／一九三〇年代日本におけるキュービズム論(五十殿利治)

▼刊本篇▲ 第10巻

『表現主義文学の研究』(小池堅治・大正15年・古今書院)

▼刊本篇▲ 第11巻

『新ロシア舞台美術大観』(昇曙夢・新ロシアパンフレット第八編・昭和2年)／『西洋美術の知識』(抄録) 二氏義良・昭和4年・アルス／『映画の研究』(抄録) 飯島正・現代の芸術と批評叢書9・昭和4年・厚生閣書店／『世界美術全集』第33巻(抄録) 田辺泰・昭和4年・平凡社／『独逸文芸研究』(抄録) 山岸光宣・昭和4年・神谷書店／『疾風怒濤時代と現代独逸文学』(抄録) 成瀬無極・昭和4年・改造社／『トオキイと映画芸術』(抄録) セルデイス・著／高原富士郎・訳・昭和5年・映画評論社／『現代映画芸術論』(抄録) 武田忠哉・昭和5年・天人社／『前田寛治画論』(抄録) 前田寛治・著／外山卯三郎・編・昭和5年・金星堂／『二十世紀絵画大観』(抄録) 外山卯三郎・昭和5年・金星堂

▼刊本篇▲ 第12巻

『二十世紀の欧州文学』(抄録) フリーチエ・著／熊沢復六・訳・昭和6年・鐵塔書院／『世界芸術発達史』(抄録) マーツァ・著／熊沢復六・訳・昭和6年・鐵塔書院／『キュービズム』(伊原宇三郎・近代美術思潮叢書3・昭和12年・アトリエ社)／『近代芸術』(抄録) 瀧口修造・昭和13年・三笠書房／『片山正雄遺文』(抄録) 片山正雄・昭和18年・南江堂／『解説』日高昭一・五十殿利治

●モダン・アートの創世記

近代文学研究・神奈川大学教授

日高昭一 Hidaka Shoyji

森鷗外による「未来派宣言」の紹介は、明治四十二年。パリ滞在中に注目した未来派の詩を訳出した与謝野寛の詩集『リラの花』と、キュビズム絵画の理論を紹介した木村荘八『芸術の革命』の刊行は、ともに大正三年である。以後、ヨーロッパの新しい芸術の息吹が続々と日本に伝えられる。それに少し遅れて表現主義がもたらされる。佐藤春夫や谷崎潤一郎らによる映画「カリガリ博士」の批評を挟みつつ、築地小劇場における演劇運動として花開く。時代に敏感な芸術家たちの叫びは、模倣や再現をきびしく拒否しつつ、現実変革の欲求を含んだ理論化への意志を表明することで、モダン・アートの創世記を現出していたのである。

絵画・文学・映画・演劇など、ジャンルを横断して新興芸術の胎動を把握しようとする本叢書は、「芸術」の革命的な気運というものが何を契機として、また何に根拠を置いて、一つの時代をゆり動かしていくのかをたどる試みである。と同時に、それらの昂奮と熱狂を、新聞・雑誌などのメディアがどう伝えていたのかをトータルに検証する、はじめての機会ともなるだろう。

●哄笑と侮蔑

近代美術史研究・筑波大学教授

五十殿利治 Onuka Toshiaru

二〇世紀初頭の西欧では、あたかも世紀末によってせき止められていた芸術運動の水門が一挙に開かれて、フランスで、ドイツで、イタリアで奔流となり、美術界のみならず、広く社会全般に大きな衝撃を与えた。その趨勢は、開国して半世紀も経過していなかった、この極東の国にも、大きな偏差を伴いながらも、いちはやく伝えられた。あるときは森鷗外の「は、は、は」という哄笑をもって、あるときは岸田劉生の「専横にして僭越」という侮蔑をもって。しかし、哄笑といい、侮蔑といい、その裏では、芸術に巨大な地殻変動が生じつつあるかもしれないという直感が働いていただろう。この国にも、そうした芸術現象を同時代的な意識において深く認識し、受け止める土台が形成されつつあったし、この土台なくして我等の芸術も展開しなかったのだ。その意味で、このたびの叢書に収められた各著述は、近代日本の芸術史の動向に大きく寄与した面があったにもかかわらず、これまでともすれば一過的な熱狂と見過ごされてきたものであるが、じつは貴重な時代の証言なのである。

本書の特色

■未来派・立体派・表現主義

海外新興芸術をめぐる、文献を集大成。

文学・絵画、演劇・映画——大正・昭和前期、芸術の各ジャンルを席卷した、未来派・立体派・表現派の言説を初めて集大成。明治四十二年、鷗外（筆名・無名氏）紹介による「未来派宣言」より昭和一〇年代前半に至るまで。その総数は六〇〇余点に及ぶ。



■時代を再現する。

絵画・文学・映画・演劇など、新興芸術はジャンルを横断し、その姿を確たるものとした。本叢書ではそれらを編年体で編集。読者は、当時の絵画展、演劇、映画の反響、論争などの情報をヴィジュアルに追体験することができる。



■新たな研究の展開を拓く。

新興芸術をめぐる言説を網羅した本叢書は、新聞・雑誌などのメディアによって、新興芸術をめぐる潮流がどのように形作られていったのかを検証するための初めての試みとなる。



■大正・昭和前期の芸術を学ぶすべての人々に送る、必読のシリーズです。

海外新興芸術論叢書

[監修]

日高昭二・五十殿利治

第2回配本 新聞・雑誌篇 全10巻の構成 2005年1月刊行

全10巻揃定価168,000円(本体160,000円) ISBN4-8433-1340-8 C3370

- 第1巻 1909~1915 明治42年~大正4年 ●定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-1341-6
- 第2巻 1916~1921 大正5年~大正10年 ●定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-1342-4
- 第3巻 1922 大正11年 ●定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8433-1343-2
- 第4巻 1923 大正12年 ●定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-1344-0
- 第5巻 1924 大正13年 ●定価23,100円(本体22,000円) ISBN4-8433-1345-9
- 第6巻 1925~1926 大正14年~大正15年 ●定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8433-1346-7
- 第7巻 1927~1929 昭和2年~昭和4年 ●定価17,850円(本体17,000円) ISBN4-8433-1347-5
- 第8巻 1930~1940 昭和5年~昭和15年 ●定価12,600円(本体12,000円) ISBN4-8433-1348-3
- 第9巻 補遺篇Ⅰ ●定価17,850円(本体17,000円) ISBN4-8433-1349-1
- 第10巻 補遺篇Ⅱ・解説 ●定価 9,450円(本体 9,000円) ISBN4-8433-1350-5

第1回配本 刊本篇 全12巻の構成 好評発売中

全12巻揃定価205,800円(本体196,000円) ISBN4-8433-1121-9 C3370

- 第1巻 『キュビズム』(A・グレース/J・メッチンガー・著/蘇武祿郎・訳・大正4年・向陵社)ほか ●定価18,900円(本体18,000円) ISBN4-8433-1122-7
- 第2巻 『立体派と後期印象派』(アーサー・ジェローム・エツデイ・著/久米正雄・訳・大正5年・向陵社)ほか ●定価14,700円(本体14,000円) ISBN4-8433-1123-5
- 第3巻 『マチス以後 仏蘭西絵画の新世紀』(川路柳虹・大正5年・アトリエ社)ほか ●定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8433-1124-3
- 第4巻 『ピカソと立体派』(中川紀元・大正11年・日本美術学院)ほか ●定価12,600円(本体12,000円) ISBN4-8433-1125-1
- 第5巻 『新しき時代の精神に送る』(抄禄/神原泰・大正12年・アイデア書院) / 『芸術の理解』(抄禄/神原泰・大正13年・アイデア書院)ほか ●定価13,650円(本体13,000円) ISBN4-8433-1126-X
- 第6巻 『立体派・未来派・表現派』(一氏義良・大正13年・ARS)ほか ●定価16,800円(本体16,000円) ISBN4-8433-1127-8
- 第7巻 『印象より表現へ』(山岸光宣・新演劇叢書1・大正13年・玄文社) / 『表現主義の戯曲』(北村喜八・芸術研究叢書・大正13年・新詩壇社)ほか ●定価22,050円(本体21,000円) ISBN4-8433-1128-6
- 第8巻 『未来派研究』(神原泰・大正14年・アイデア書院)ほか ●定価22,050円(本体21,000円) ISBN4-8433-1129-4
- 第9巻 『ピカソ』(抄禄/神原泰・大正14年・アルス) / 『カンディンスキー』(抄禄/村山知義・大正14年・アルス)ほか ●定価12,600円(本体12,000円) ISBN4-8433-1130-8
- 第10巻 『表現主義文学の研究』(小池堅治・大正15年・古今書院)ほか ●定価15,750円(本体15,000円) ISBN4-8433-1131-6
- 第11巻 『疾風怒涛時代と現代独逸文学』(抄禄/成瀬無裡・昭和4年・改造社) / 『トオキイと映画芸術』(抄禄/セルディス・著/高原富士郎・訳・昭和5年・映画評論社)ほか ●定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8433-1132-4
- 第12巻 『キュビズム』(伊原宇三郎・近代美術思潮講座3・昭和12年・アトリエ社) / 『片山正雄遺文』(抄禄/片山正雄・昭和18年・南江堂)ほか 【解説】日高昭二・五十殿利治 ●定価16,800円(本体16,000円) ISBN4-8433-1133-2



〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方
文学・芸術・映画・演劇など
の研究者および研究機関ほか。

近代美術関係 新聞記事資料集成 第Ⅱ期・補遺篇

●全7リール揃定価280,000円(分売不可)
既刊分全71リールを補完。東京文化財研究所所蔵「国華倶楽部作成 諸新聞切り抜き帳」「諸新聞切り抜き帳」を収録。2005.1月刊行

近代美術関係 新聞記事資料集成 第Ⅰ期

●全71リール揃定価1,341,900円(分売不可)
東京芸術大学附属図書館所蔵「諸新聞切抜帖」351冊を底本に、明治24年~昭和16年までの美術関連の新聞記事をマイクロフィルムで集成。

近代美術新聞記事総覧

全16巻(予定) ●各巻予価18,900~21,000円
マイクロフィルム版『近代美術関係新聞記事資料集成』の目録版ついに刊行。明治24年~昭和16年まで、日本の近代美術関係記事名を総覧。1巻に3年分(39000~54000件)を収録、全16巻の予定。2005.4月から配本開始予定

近代美術雑誌叢書

全37巻・別巻1・別冊6 ●揃定価554,768円
[監修] 青木 茂 日本近代美術の足跡をたどる基本資料。「大日本美術新報」「臥遊席珍」「東洋絵画叢誌」「美術評論」「龍池会報告」「明治美術会報告」「美術園」「美術週報」「美術旬報」「美術月報」「国民美術」を収録。

林忠正コレクション

全4巻・別巻1 ●揃定価155,400円 残部僅少
[監修] 木々康子 欧州では日本美術の第一人者として、日本では印象派を中心とした西洋美術の紹介者として、両地の文化に多大な影響を与えた大美術商、林忠正の「林忠正蒐集西洋絵画図録」「Collection Hayash」を復刻。

近代日本アートカタログコレクション

全82巻 ●揃定価1,276,800円 全巻完結!
[監修] 青木 茂 [編纂] 東京文化財研究所
明治から昭和戦前期にかけて活躍した主要美術団体の展覧会関係資料を集成。出品目録・図版・関係論文等々、近代美術史研究の基礎資料。展覧会会場での限定販売が多く、所蔵機関も極めて少ない稀覯文献。

関連企画の案内

※表紙価格には消費税が含まれています。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日

海外新興芸術論叢書 新聞・雑誌篇 全10巻
●揃定価168,000円(本体160,000円) ISBN4-8433-1340-8 C3370

お名前
〒住所
TEL ()

取扱店

※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。



05.01/01.7000.N